

はじめに

去る3月11日、東日本で激しい地震が起こり、その後の巨大津波によって東北地方の海岸沿いにある多くの市町が大変な被害にあいました。岩手県陸前高田市もその一つで、市内にあった陸前高田市立博物館は津波にのまれ、建物はおろか、職員も全員が死亡または行方不明になるなど壊滅的な被害を受けました。

あらためて、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

陸前高田市立博物館は1959年開館の古い歴史をもつ総合博物館で、収蔵庫には陸前高田の自然・歴史・文化に関する多くの資料・標本類がりましたが、すべてが砂泥まじりの海水をかぶりしました。4月中旬から岩手県教育委員会と博物館関係者ほか、多くのボランティアにより瓦礫撤去、標本資料類の救出作業が行われました。植物標本は約15,000点が館内から見つかり、大多数の標本は深刻な被害を受けていましたが、懸命な作業により4月下旬には岩手県立博物館へ移送されました。



被災した陸前高田市立博物館の展示場付近の様子



瓦礫を取り除いた収蔵庫内、奥の左側の棚にあるのが植物標本



全国から、標本救済の手が

全国への配送準備が整った標本
(岩手県博)

救出された植物標本は、海水の泥水をかぶったまま震災後1カ月以上放置されていたことにより、カビが発生したり腐敗が進んだものもありました。しかし貴重な植物標本を復元したいという関係者たちの強い思いがあり、岩手県立博物館から全国の博物館施設などに対して標本救済の呼びかけがなされました。そして全国29の博物館・大学等施設が救済支援に動いたのです。

当館でも、西日本自然史系博物館ネットワークからの支援の呼びかけに応じ、600点を受け入れて5月中旬から修復・復元作業を行ってきました。

ここでは、津波被害を受けた植物標本を元の状態に復元するという、いままで誰も経験したことのない作業をどのように行ったのか、具体的な手順を交えて紹介します。あわせて標本を守ることの意味についても考えます。

